

新刊紹介

Les Coléoptères du Monde, Vol. 8, Carabini 1 —*Apotomopterus*,
Ohomopterus, *Archaeocarabus*, *Isiocarabus*, *Morphocarabus* (1)—.

By P. RATTI, P. CAVAZZUTI, A. CASALE & S. BATTONI.

122 pp., 27 pls. 1990. Sciences Nat, France. 875 F.

Sciences Nat 社からシリーズとして出されている“世界の甲虫”に、いよいよオサムシが登場することになった。今回出版された第1部は、中国大陸から極東地域に分布する種を多く含むグループを扱っているので、わが国の研究者、愛好家にとってもきわめて興味深く、重要なものといえよう。

15枚の原色図版に収められた112種の顔ぶれはなかなか見事で、中国、ビルマ、ラオスなどから1〜数頭の標本しか知られていないような珍品もかなり含まれている。本書で初めて図示される種もかなりの数にのぼるであろう。欧米の各博物館に保管されている基準標本の写真もきわめて貴重で、レニングラードの *Carabus (Archaeocarabus) relictus* や、スミソニアンの *C. (A.) kweitshauensis* などを目にしたときにはおおいに感激した。

それにしても、これだけ充実した標本を扱っておきながら、内容的には本書もまた、悪評高い同シリーズの伝統をしっかりと守っているようである。図版の前後に、仏語と英語による同内容の本文を配した構成となっているが、種ごとの解説が簡単すぎるうえ、検索表も付いていないので、種や亜種の正確な認定はほとんど不可能に近い。種の配列は、ブルメンタールのチェックリスト（プロイニングの総説発行後に記載された種を補って個人的に作成されたもの）をほぼそのまま踏襲したに過ぎず、外部形態のみに依存したその古典的分類体系は、とても容認できるものではない。*Apotomopterus* のなかには明らかに系統の異なる種が含まれているし、*Morphocarabus* という、いわば巨大なルツボのなかに、複数の系統に由来するグループをすべて詰め込んで涼しい顔をしていられる無神経さに呆れるのは、筆者ばかりではあるまい。学名の綴りや同定の誤りなど、アラを探しはじめればきりがなく、インセクト・マガジン（1970、オサムシ特集号）で日本語により暫定的に提示された型名が、あたかも正式に記載された学名であるかのごとくラテン語表記されているのには啞然とさせられる。分布図にいたっては、もはや誤りをいちいち指摘する気も失せるシロモノで、邦産種のそれを見ると、あまりの惨状に誰しも思わず目を覆いたくなるだろう。他の地域も推して知るべしで、中国産種の分布図はプロイニングの焼き直しに過ぎないし、朝鮮半島産のものについても、この地域を扱ううえで必須の文献である KWON & LEE のモノグラフ（1984）がまったく無視されている。

本書がこうまで低質なものになってしまった原因のひとつは、プロイニングの種の配列に固執するあまり、*Apotomopterus* や *Isiocarabus* といった、世界のオサムシのなかでももっとも知られていないグループから先に手をつけてしまった点にもあるだろう。著者らの地元であるヨーロッパ産のものから始めていれば、もう少しはまな仕事ができたと信じたい。それにしても、文献、情報の収集ならびに原記載の正確な検討に対する努力が決定的に不足していて、これではとうぶん、既刊の巻と同様の酷評をあび続けることは避けられまい。1頭の図示もなかった“プロイニング”に出てくる種の大半を原色で示し、絵合わせによる同定を容易にした功績は大きいですが、それ以外の部分については、イタリア人の著者4人のもつビジョンやオリジナリティといったものがなんら感じられない本に仕上がってしまっている。それとも冒頭に述べられているように、本書は“オサムシのレビジョンを試みたものではなく、単純に既知種の図解に徹した”ものと割り切って、あまり目くじらを立てず、図示された珍品を楽しく眺めておけばよい性格のものなのだろうか？日本国内での価格は25,000円前後。

(井村有希)